

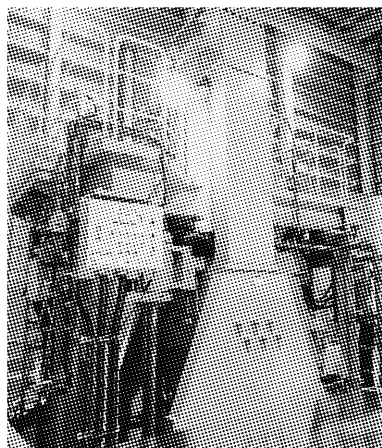
HIP装置を増設

シルバー超硬合金処理能力3倍

【姫路】シルバーロイ（兵庫県加西市、高見康博社長、0790・44・0603）は、本社に超硬合金のHIP装置（熱間静水圧加圧装置）を1基導入し本格稼働した。総投資額は約5億円。既存設備と併せて2基体制とし、処理能力を従来比3倍に拡大した。増加している超硬合金の受注に対応できるほか、社内でHIPを用いた超硬合金の素材開発にもつなげる。

本社敷地内に専用建設備は1000気圧が屋を建設した。HIP上限だが、今回導入の装置の導入は約35年ぶ設備では上限2000気圧まで、神戸製鋼所製の気圧まで対応可能で、HIPを入れた。既存サイズが大きい超硬合

2000気圧まで対応



本社敷地内で本格稼働したHIP装置

金の処理に使えるほか強度や硬さも高められる。HIPは超硬合金を高圧容器に内蔵された電気炉の中に入れ、ア

ルゴンガスによるガス圧と高温を同時に加え、加圧再焼結を行う。引っ張り強さや機械的性質が向上し、安定した高強度な超硬合金を作れる。シルバーロイは自動車や電子部品、建築と幅広い業界に、各種超硬合金素材を製造販売する。品質の良さからここ数年、各業界から受注が増えており、HIP設備の増設が不可欠と判断した。また、これまで大型品に関してはHIP処理を外注していたが、内製化でリードタイム短縮にもつなげる。

さらに超硬合金の材料開発を進め、高強度や耐久性の高い超硬合金を開発し、高見千秋会長は「もっといいモノを作りたい」と意気込む。

同社の売上高は非公表だが、今回の設備投資で受注案件を増やし、今後5年以内に全体売上高を現在比2割引き上げる。